

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で理念を共有し、日々のミーティングやカンファレンスでの話し合いを通して実践につなげている	法人理念、ホーム独自の運営理念、運営方針を事務所内に掲示し理解を深め、職員会議、カンファレンスで話し合いを重ね支援に取り組んでいる。個々のケアで迷いが出た時には職員同士がカバーし合い、「共に歩む」の理念に立ち戻り、笑顔で暮らせるホームづくりに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の外出や散歩時にあいさつを交わしたり、福祉広場や地域の防災訓練等に参加したりして、日常的な交流の機会を大切にしている	法人として町会費を納め活動している。地域との関係は引き続き良好であり、町会長より行事案内があり参加出来る事柄については積極的に参加している。地区の防災訓練、文化祭、オレンジカフェ等に参加し交流を深め、また、行事の際に「人形劇」、「大正琴」等のボランティアの来訪もある。更に、保育園との交流、高校生の職場体験、大学生の介護実習の受け入れも定例化し地域との関係を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して情報の発信に努めている。また介護実習生の受け入れを行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回の会議で活動報告を行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。また町会などと予定を共有しながら、その後の計画などに反映させている	2ヶ月に1回、家族代表、町会長、民生委員、地域包括支援センター職員、別法人グループホームの管理者、ホーム関係者の参加で実施している。現状報告、活動報告、地域よりの行事案内等が行われ、出席者による意見交換や助言を頂き運営の向上に役立てている。また、引き続き会議議事録を町会長に作成して頂くなど、地域の中に根差した会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市からの派遣相談員の訪問時に利用者様の暮らしぶりなどを見ていただいたり、運営推進会議に地域包括支援センターに参加していただいたりして、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の高齢福祉課に必要な時には相談している。月1回、市から派遣される相談員が来訪している。3年間変わらず同じ相談員が担当され利用者とも馴染みとなり親しく話し、終了後口頭で報告を頂きケアの向上に役立てている。介護認定更新調査は調査員が来訪しホームにて行い、家族にも連絡し立ち会われる方もいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修を通じ何が身体拘束にあたるかを理解しケアに取り組んでいる	拘束をしないケアを前提に取り組んでいる。年一回法人作成のDVDを見ながら研修会を行い理解を深めている。玄関は安全確保のため施錠しているが、離脱傾向の強い方は様子を見守り、散歩し対応している。所在確認はホールで過ごしている時には絶えず行い、居室での所在確認も1時間に1回行っている。転倒防止のため家族と相談しセンサーマットを使用している利用者が若干名いる。	

グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を通じ虐待のないケアに取り組んでいる		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会への参加などを通じ学ぶ機会を持っている。必要に応じ関係者等と話し合い活用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結・解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間を取り丁寧に説明を行い、理解・納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には毎月生活の様子をお知らせしており、面会時等に何でも言ってもらえる雰囲気作りを心掛けている。また月一回派遣相談員の訪問もあり、そうした意見や要望を運営に反映させている。	生活歴を家族より聞きケース記録に情報を集約し支援に取り組んでいる。毎月、各利用者の様子を写真入りで知らせ、金銭残高報告、行事案内等もお便りとして纏め家族に送り喜ばれている。家族の来訪は様々であるが全家族の来訪が有り、利用者、職員と交流する機会を持っている。家族会も年2回行い、6月には2ユニット合同で寿司職人による握り寿司を楽しみ、11月にはユニット毎に食事会を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見を言える環境作りに努めており、カンファレンスや面接などで意見や提案を聞く機会を設けている	月1回全体の職員会議を行い、連絡事項、事故等の報告、各委員会の報告、ユニット間の情報交換等を行っている。ユニット毎のカンファレンスも毎月開催され、利用者個々の状況について細かく話し合いケアの実践に繋げている。年2回の目標管理制度があり職員は管理者と個人面談を行い意見、提案等の話し合いの機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に話を聞く機会を設けたり、資格取得に向けた支援を行うなど、向上心を持って働けるよう配慮している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修に参加するよう促したり勤務の調整を行うなど、研修に参加できる機会を確保している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ地域にあるグループホームの運営推進会議に相互に参加し合うなど、交流や情報交換を行っている		

グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の様子を見ながら、会話を通じ聞き出したり表情を見たりしながら、ご本人が安心して生活できるような関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族等の要望を聞きながら信頼関係を築いていくよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況を確認しながら必要な支援が行えるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などの出来ることを一緒に行ったり、お茶の時間などに話し相手になったりしながら、共に暮らす者同士としての関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時にはご本人を囲み一緒に話をしたり、外出や外泊などをご家族等に協力してもらいながら、情報を共有し共に支える関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブ等外出時に馴染みの場所に出掛けたり、馴染みの美容室を利用するなど、ご家族等と連携を図り協力しながら、途切れないよう支援に努めている	平均年齢も90歳を超え、友人、知人もまた高齢になり来訪される方も減ったがたまに見える方もいる。電話が掛ってくる方や手紙・年賀状を出す利用者もおり、職員が手助けしている。数名の利用者は近くの馴染みのスーパーに職員と買い物に出掛け楽しんでいる。利用者同士の関係についても職員が中に入り日々の関わりが途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置や外出時の組み合わせに配慮をしたり、職員が共に会話に参加するなどしたりして、関係がうまくいくよう職員が調整役となって支援している		

グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて手紙や電話で近況を聞いたり相談に応じたりしながら支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行動の中から希望や意向を把握するよう努め、変化を見逃さないよう日々の気付きを共有しながら、カンファレンス等でご本人の立場に立ったケアを検討している	数名の方は意思表示できるが残りの方は難しい状況になって来ている。言葉を選びきめ細かく声掛けをし、日頃の行動パターンで「好きな事」、「嫌いな事」を把握し、時として職員を変え、情報を共有し「もし自分だったら」と利用者の気持ちに立ち寄り支援に取り組んでいる。また、入浴時にはリラックスして気持ちを聞くことができるので大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人、またこれまでのサービス提供者等から話を聞くなどして把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムや心身状態を注視し、記録やカンファレンス等で情報を共有しながら、現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族との関わりの中から意見や想いを聞き、カンファレンス等での話し合いを通してそのときの状況に即した介護計画を作成している	職員は1~2名の利用者を担当している。家族の希望や意向を聞き、月1回のカンファレンスで職員の意見を出し合い、6ヶ月に1回の見直しを行っている。ケアマネージャーが計画を作成し家族にも来訪時に報告、説明を行い、現状に合った支援に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の言葉や表情などより詳しくわかりやすい記録に努め、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の意向に沿ったサービスが提供できるよう、柔軟な支援に努めている		

グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のオレンジカフェへの参加や、派遣相談員の訪問など、安全で豊かな暮らしが楽しめるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時はかかりつけ医について丁寧に説明し、納得と同意を得られたかかりつけ医に受診できるよう支援している。主治医には状態を報告し、適切な医療が受けられるよう支援している	五分の四近くの利用者はホーム協力医の月1回の往診で対応している。数名の方は以前からのかかりつけ医で受診し、残りの方は他の医師の往診となっている。歯科は往診でその他専門科目は家族と職員が状況に応じ同行している。協力医の訪問看護師が週1回来訪し利用者の健康管理を行い、24時間対応できるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護を含め、必要に応じ気付いた点や状態の変化を伝えて相談し、情報を共有しながら適切な医療を受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院に行き状態の把握に努めるとともに、退院に向けた医療関係者との話し合いを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から説明を行い話し合いを始めている。随時ご本人やご家族の意向を聞き、主治医等とも相談し方針を共有しながら、チームとして最後まで安心して暮らせるよう支援している	看取りに関する指針があり、利用契約時に説明している。利用者、家族が希望した際、主治医とホームによる話し合いを行い、家族の同意を頂き看取り介護に入り、利用者や家族の気持ちを大切にしながら看護師や医療機関と24時間の連携を取りホーム全体で最期まで心のこもった支援に取り組むよう心掛けている。この1年間に2名の方の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習や施設内研修などを通じ知識や技術を身に付けられるよう努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の防災訓練や月一回のミニ防災訓練等を行い、避難誘導や消火器の使い方などの訓練を実施している。また運営推進会議を通して地域との協力体制を築いているよう努めている	年2回併設のケアハウス、デイサービスと合同で防災訓練を実施している。法人の危機管理室職員、消防署員参加の下、消火、通報、避難の各訓練を実施している。また、月1回ミニ防災訓練も夜間想定では利用者を玄関まで移動し訓練を行っている。更に、水害時には併設ケアハウスの3階を避難場所としている。備蓄も食糧の他、防災器具も法人として準備している。	

グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の気持ちを考え尊厳を大切にしながら、一人ひとりに合った言葉かけや対応をしている	トイレでの介助に特に気配りをしている、ホール等で失敗した際には気持ちを傷つけないよう小さな声で別の会話で利用者を誘導し気持ちを傷つけないよう対応している。呼び方は人生の先輩である利用者に尊敬の念を含め苗字を「様」付けでお呼びしている。プライバシー保護の研修会を行い意識の向上にも努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ選択が出来るような声かけをするよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの気持ちやペースを大切に、日課などを優先しないよう支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選べる方には好きな服や髪型を自己決定できるようにし、職員が決める場合でもご本人の好みを考慮して決定するよう努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の希望を聞いたり、毎回の食事を写真に収め反応を記録するなどして一人ひとりの好み等を把握しながら食事に活かしている。また盛り付けや下ごしらえなど出来ることを一緒にしながら支援している	約半数の方は自力で食事が出来る。その他の方は何らかの介助が必要な状況で食形態も各利用者に合わせ「キザミ」、「トロミ」等の対応を取っている。職員と一緒に笑顔で準備から片付けまでお手伝いしている数名の利用者の姿があった。食事も職員が共にし、楽しい時間となっている。誕生日には好物をお出しし3時にはケーキでお祝いしている。お彼岸、正月、クリスマス等には特別食を楽しんでいる。また、季節の食材を活用するように心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し、一人ひとりの状態や習慣に合わせた支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせて毎食後口腔ケアを行っている		

グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用い一人ひとりの排泄パターンの把握に努めながら誘導や声かけを行い、身体機能に合わせた介護用品も検討するなど、トイレでの排泄を大切にケアを行っている	自立の方は若干名で、その他の方は全介助を含め介助が必要となっている。布パンツ使用の方は数名でほとんどの方はリハビリパンツとパット使用である。食事前、お茶の前、また、排泄表を利用し時間を見て声掛けをしている。ホームの全トイレは匂いが全く無く、きめ細かく掃除、換気を行い汚れた物を放置しないよう心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訪問看護師等と相談し、食事内容を工夫したり散歩や体操などの運動を行ったりして予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりのペースで入浴出来るよう時間帯なども配慮し、入浴が楽しめるよう工夫している。拒否のある方には無理強いないで、状況に応じた支援を行っている	基本的に週2回入浴を行っている。全利用者が何らかの介助を必要としており職員二人で介助する方も三分の一近くいる。入浴拒否の方もいるが時間を変え、日を変え、人を変え対応している。季節によって「ゆず湯」、「菖蒲湯」、「リンゴ湯」等を楽しんでおり、また、家族と温泉に出掛ける利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状況を見ながら午睡や休息の時間を取るようしたり、生活のリズムが安定するよう環境を整えるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の情報が常に見られるようになっている。変更があった場合には職員に周知し、状態の変化の確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話やご家族への聞き取りなどから一人ひとりの好きなことを把握し、家事や散歩、手芸など、利用者様が喜びや役割を持つよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望や状態に応じて対応できるように体制作りを努めている。また外出や外泊など、ご家族とも協力しながら支援している	利用者の高齢化が進み外出時には杖、歩行器、車イスが必要となっているが、天気の良い日には玄関前で花を見たりホーム周辺を散歩し、ベランダに出て外気浴などを行っている。季節によってドライブを兼ね花見、あじさいやぼたんの見学、紅葉狩り等に小グループに分かれて出かけている。また、誕生日に家族と食事に出掛けたり、お盆に外泊される利用者もいる。	

グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じてお金を所持してもらい、買い物などの際は支払いが出来るよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて手紙や電話のやり取りを支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間にはのれんやモビール、花などを飾り季節感を採り入れ、また温度や明るさなどはこまめに調整するよう努めている	整理整頓、掃除が行き届いたホールは天井が高く開放感がある。オープンキッチンからはホール全体が見渡せる造りになっている。十分な広さが確保されたホールには食卓とソファが置かれ利用者が寛いでいる。また、職員と一緒に体操をしたり折り紙製作等を行う生活の場となっている。壁には毎月の利用者の様子を写した写真が飾られている。空調は床暖房とエアコンで快適である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの配置を工夫し、一人で過ごせたり仲の良い利用者様同士でくつろげるよう支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ使い慣れた馴染みの家具などを置いている。また花や写真を飾るなど、ご本人が馴染みのあるものに囲まれ居心地の良い空間になるよう工夫している	各居室は掃除が行き届き、綺麗な生活の場となっている。利用者は使い慣れた家具、御位牌などを置き、家族の写真や自身の作品等も飾り、思い思いの生活を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わかりやすい言葉で案内を書いたり、必要な目印を付けたりして、一人ひとりが自立した生活を送れるよう支援している		